

群 教 セ	G15 - 01
	平 30.268 集
	高 - キャリア

# 平成30年度長期社会体験研修報告書

## 研修先：株式会社群馬銀行

長期社会体験研修員 滝波 洋子

### I 研修内容

#### 1 研修先の概要

株式会社群馬銀行は、昭和7年9月設立の、本店を群馬県前橋市に置く地方銀行である。国内外に拠点を持ち、平成30年4月30日現在の拠点数は156店舗である。「地域とお客さまの明日をサポートし、共に成長する地域金融グループ」の実現に向け、地域密着型金融の推進、お客さま本位の業務運営などの諸施策を展開し、お客様のニーズに対して的確に応え、ワンランク上の満足が得られるように取り組んでいる。また、女性の活躍推進に関する取組の実施状況等が優良な企業として「えるぼし（3段階目）」の認定などを取得している。

#### 2 研修先での主な研修内容

##### (1) 営業係研修【4月～8月】（研修場所：伊勢崎支店）

ロビーでの顧客ご案内係では、顧客に対し各種伝票の記入方法やATM操作の案内などを行った。預金後方業務では、公金・為替において振込などの端末操作、小切手や約束手形の取立て、伝票整理、郵便物の作成などを経験した。

##### (2) 渉外係研修【9月、1月～3月】（研修場所：伊勢崎支店）

預かり金融資産業務では、ローカウンターにて顧客への商品ご提案時に同席した。また、帯同訪問では、法人への訪問に同行した。

##### (3) 融資係研修【10月～12月】（研修場所：伊勢崎支店）

外国為替業務では、窓口にて日本円と外国貨幣の両替を受け付けた。そのための伝票作成や端末操作に携わった。また、外国送金の書類作成や端末操作も行った。

##### (4) 行内研修【4月～3月】（研修場所：研修所など）

階層別研修では、入行時研修から6年目研修、新任係長研修、新任支店長代理研修、新任次課長・役研修などに参加した。また、研修プログラムとして様々な内容が組み立てられており、Vリーグ運営体験、金融教育体験、座禅体験、ディズニーマカデミーなどにも参加した。業務別研修では、テラー初任者研修、渉外初任者研修、預かり金融資産担当者役割認識研修、女性専門チーム、融資基礎研修、財務入門研修などを受講した。

#### 3 キャリア教育実践

##### (1) キャリア教育資料について

銀行業務の紹介等を通じて、社会人として必要な態度を学校生活の中で生徒に身に付けてほしいと考え資料を作成した。銀行業務に携わることで、信頼とは地域や顧客のことを思い、考えるということであると感じた。そのために銀行では、知識の習得はもちろんのこと、きまりを守ること、顧客を思って業務を行うことを重視した研修が多く実践されていた。このような取組は学校の生活指導と共通する点が多い。学校生活で身に付けた力は、学校だけで必要とされるものではなく、社会人としても必要な能力であることに気が付けるように共通点を示した。また、銀行の三大業務や銀行の仕事を紹介するとともに、仕事に対するやりがいや思いなどについて行員にインタビューし、生徒へのメッセージとして掲載した。将来、生徒が信頼される社会人になるために、今の学校生活をどのように過ごしていきたいか、自己の生活を見直すきっかけとなる内容で構成した。

## (2) 実践の概要（県立伊勢崎興陽高等学校）

題材名「今、身に付けておきたいこと—信頼ある社会人になるために—」

（特別活動「ホームルーム」）

対 象 総合学科第2学年 198名

所属校で事前にアンケートを実施し、生徒の現状を把握した上で学校の課題に即した内容の授業を展開することとした。群馬銀行の行内研修で得た信頼や働く意義などを基に授業を実践した。生徒に、自らの将来の社会人像を考えさせ、理想の社会人になるためには、現在の学校生活をどのように過ごす必要があるかを考えさせた。働くことの意義をグループで共有させ、信頼ある社会人となるためには、日々の学校生活をどのように過ごすかをワークシートに個人で記入させ、自らの学校生活の振り返りをさせた。

## II 研修成果

### 1 群馬銀行伊勢崎支店での研修について

他者を思いやる気持ちの大切さを学ぶことができた。業務を早く正確に行うこと、そのための知識や応対方法の習得などは顧客本位の行動である。その結果、顧客からの感謝の言葉が仕事のやりがいや面白さにも通じると感じることができた。また、行員同士の積極的なコミュニケーションを通して、ミスや行き違い、紛失などを防止していた。行員同士でも他者を思いやる心を大切にしながら、円滑な業務遂行や仲間との目標達成を目指していることを知った。商業の授業を通して、CS(顧客満足)の大切さを生徒に伝え、他者を思いやる気持ちを培いたい。

### 2 群馬銀行研修所での研修について

当たり前のことを当たり前にするものの大切さと難しさを改めて感じた。コンプライアンス、人権教育、交通事故防止などについての研修を必ず実施し、行員であることの自覚と責任をもたせ、定期的に自らの行動を振り返る場を設けていた。慣れからの油断や甘えについて、考えさせられるものであった。そして、働くに当たって主体的に考え行動することなど、心の在り方についても学ぶことが多かった。

### 3 キャリア教育実践について

生徒に「将来どのような社会人になりたいか」を考えさせた。将来の職場での自らの姿を考えさせる機会を与えることができた。生徒が自らの理想像を描き、それに近付くためには、今何ができるかを主体的に考えさせることができた。生徒個々に目指す像は違うが、将来の自分のために、生徒自らが今から身に付けておきたい行動や態度を主体的に見直すことができ、これからの学校生活をより充実したものにするきっかけとなった。

## III まとめ

企業の存在意義やマーケティング戦略、財務諸表の重要性など商業教育の大切さを改めて感じることができた。特に、商業科教員として学習指導において、生徒にCSR(企業の社会的責任)の大切さを教えたい。企業が目指しているのは利益だけではなく、ステークホルダー（企業で働いている人、地域住民や環境、消費者など）が幸せに暮らすことを重視して経営をしている。他者や社会のためを考えて働くことは、やりがいや働く意義にもつながり、人として成長し「自分らしい生き方」を見付けることになると考える。本研修を通じて、商業教育の重要性と面白さをますます感じることができた。お世話になった方々への感謝を忘れずに、研修での成果を生徒の指導や学校組織の活性化のために生かし、生徒のキャリア発達を支援していきたい。

（担当指導主事 大野 慎一郎）